

一集の書の中の中平尤もいあり  
 後家おびくす用えこの也

古今和歌集

--	--

折目

おのびく書物と後集書の習と

折目

詠二首和歌

--	--	--

折目

まゝ紙よ三首の  
 和歌と徳の書  
 乃びく

おのびくも多分  
 名字の志らる

	哲目	哲目
三首	二首	題

定家卿の行へ也秘とるへ

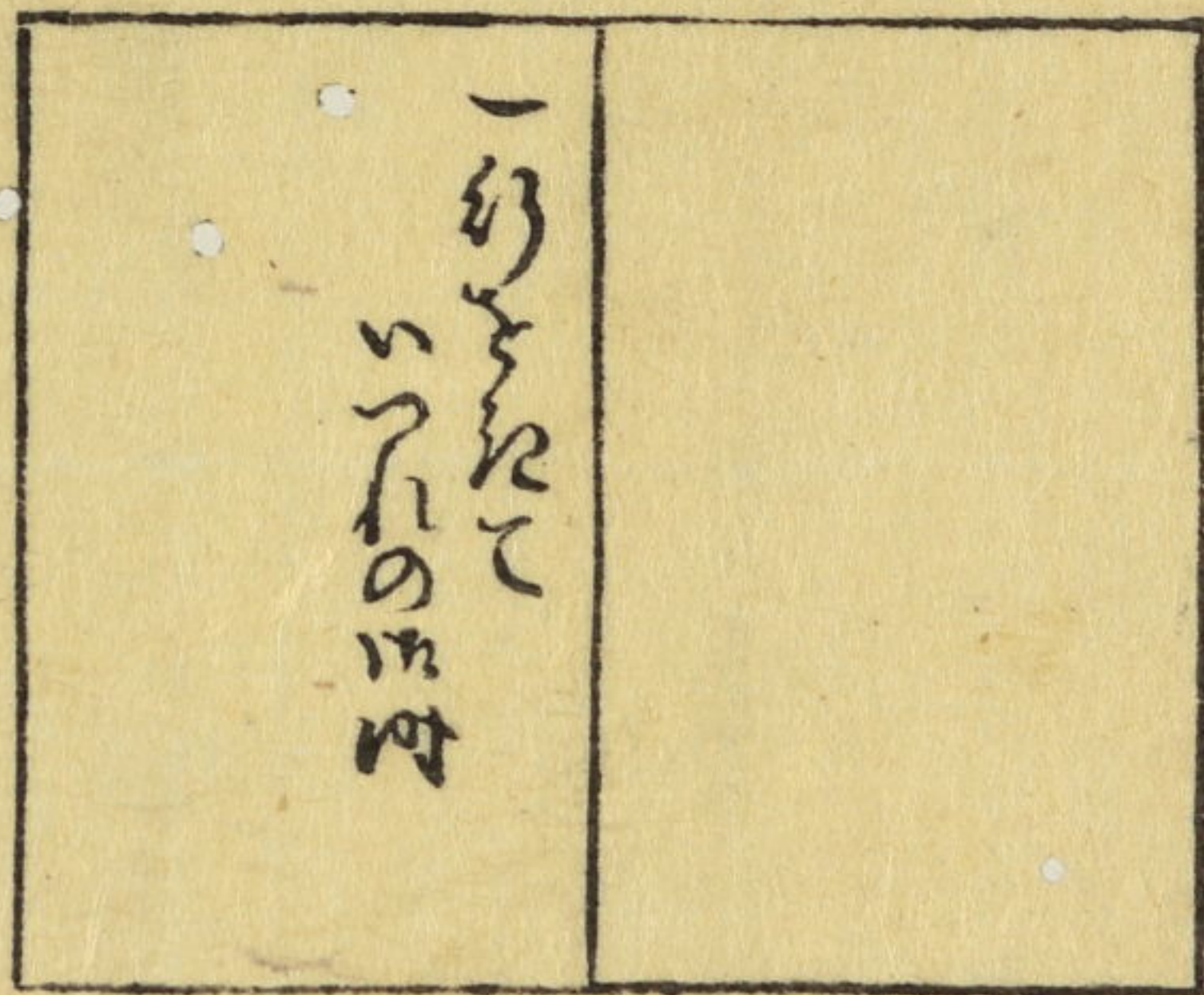
圖のちり

同断	同断	五首	一首
----	----	----	----

四折

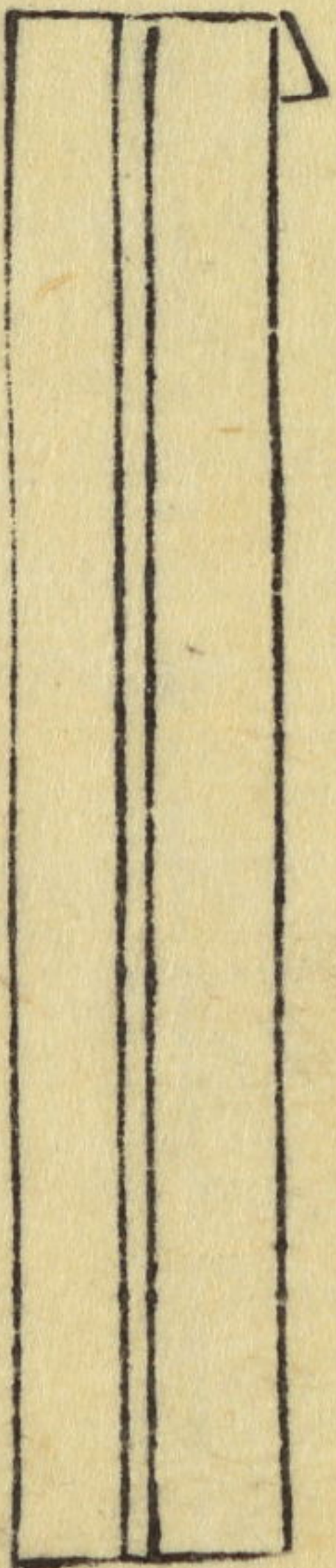
如斯 冷泉家の行は  
うしもかかれどくくよ  
亦たも同断也

是正実の相違は近所の不關してはかた田  
 兼好不關してかまふりしとあれはかた田  
 字ふりんとあてまふりしと



拍目

短冊包抄事



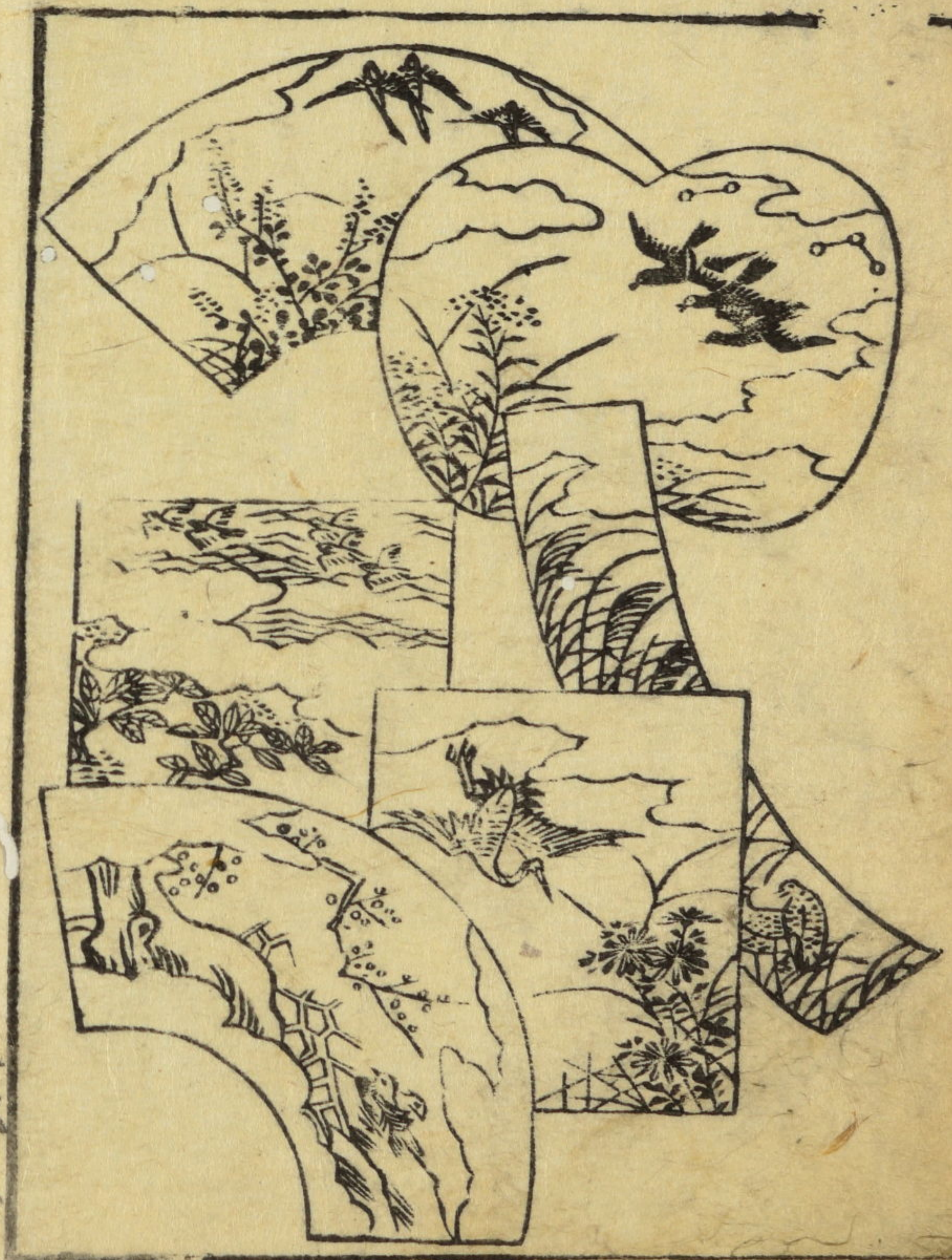
右題かた田の如く折返と題あるは  
 おろしとあてまふりしと折返とあてま  
 奥よりくまくと表也



右之道之式ハある人の書され  
 一を今昔よりらるるむじむを

干時

享保十二丁未年正月吉日



なすの詞之序

う積奇の天地あつちいさひらひげら耐

しり出本しりしりわらばたばたはたふさ

ふりしりしぬおをこの鳥黄あぶし落をそ

れし谷乃難がしりいづしり敷鳥しれ

道ちるぶかしげんふうま振神代乃

俳優はいの人の世よをえんで俳諧はい

はく縁らうんふさのこもてあま  
ま果入ぬおりのかうかしの子ねたより  
ととあう縁うや中村氏富丸が  
ゆかよる波の筒うくらうの葉あ  
をねしゆかうの中り推んも此道  
う本意うあうさねがうてあう  
さくらうのうんふさのこもてあま

はくごのちもねたあまの葉うれ  
む此面彼面うさうさうてく出漱  
の森ういと積めあまういこの  
かぐ編をうてなまやあま  
あまはくこのおのしゆか  
しうさう迷よとらうい  
かうさう推んをうてあま



なうろり病ぶうろりも筆紙人りりあふ  
まのね〜

久樂ら人書

● 増補大和言葉

いまち月とハ	。十八夜とハ
いりせとハ	。まねとハ
いなるねとハ	。いさとのとハ
いさあつとハ	。いさあつとハ
いさあつとハ	。本てあつとハ
いさあつとハ	。たのちとハ
いさあつとハ	。十六日の月とハ
いさあつとハ	。あつとハ



いらく とハ  
いさよと月とハ  
いちぢ とハ  
いりーあ とハ  
いくて とハ  
いるびーあよ  
いなひと とハ  
いさすた とハ  
い祢 とハ  
いろね とハ

。きーあをーあ  
。いてあーああ  
。りのうらあ  
。ハ橋のあまのい  
。あーく人あ  
。いなうとら  
。ああーああ  
。いああ  
。あひあ  
。いあ

いぬさ とハ  
いこーと とハ  
いまー とハ  
いば とハ

。人の一かあのあ  
。かちくろあ  
。今とらあ  
。いあ  
。あのおああ  
。ながあ  
。ああ  
。あ

奇みくのあやあ  
あああああ

いりせりとい

。女のりいせい

并にいりせりとい

美

いりせりとい

。ふらまい人とい

いりせりとい

。ふらまい人の一名

いりせりとい

。ちりりりる女の帯

いりせりとい

。セタのあふよの花

いりせりとい

。三月一日上巳日

いりせりとい

。福の町

いりせりとい

。奥の奥名

いりせりとい

。いりせり

あ

いりせりとい

。あつちり

は

いりせりとい

。うりりひや

いりせりとい

。月ま

いりせりとい

。花つむ

いりせりとい

。あつちり

。あつちり

いりせりとい

。あつちり

いりせりとい

。あつちり

くまらちちりとり	。おのれおのれおのれ
花はなしくいしつたが。	。おのれおのれおのれ
又水はすむいしつたが。	。おのれおのれおのれ
とみたちをれとハ	。むしとみたちをれとハ
くしーたりとハ	。おのれおのれおのれ
とらうくひをとハ	。おのれおのれおのれ
花くこみとハ	。おのれおのれおのれ
月とハ	。おのれおのれおのれ
花より月とハ	。おのれおのれおのれ
とみちとハ	。おのれおのれおのれ

とちのこの草とハ	。おのれおのれおのれ
とやーのつとハ	。六月のつとハ
とありことハ	。神人のつとハ
とくやとハ	。牛の家とハ
とまはけ草とハ	。梅花のつとハ
とやアとハ	。くららやとハ
とひろ草とハ	。くららのつとハ
とら代草とハ	。正月のつとハ
はまりの草とハ	。本祭のつとハ
はくかくとハ	。兄のつとハ

はかのうへんとハ	。花の影のうつろ水と云
もあこま とハ	。そらうまといふ
花うこみ とハ	。花入る影と云
もあち髪 とハ	。みそれ髪と云
もにふのままとハ	。いやーと云と云
もあのみままとハ	。かさうらうといふ
もくしとハ	。こまうあつと云
もうまこ とハ	。もろあーと云
もろちととハ	。冬の梅といふ
ハ那 とハ	。八月朔日といふ

<sup>古</sup>げ日礼儀昔自兵と建長の比より始テ行ハは  
 三年の秋の田のみものうらをいふよふくよ  
 たのしの朔日と云

もそととハ	。二思もろと云
もろとハ	。うらひとのと云
はやくとハ	。川のあとのと云
もろとハ	。始てあつと云
もろとハ	。物とたつと云

④  
 小一まき名といハ  
 〇意のあつと云



木のりく とハ ○たーのきくぬまを  
 木のきき とハ ○ちのきくぬまを  
 木のけくぬま とハ ○木のきくぬまを  
 木のそとの とハ ○木のきくぬまを  
 木のそと とハ ○木のきくぬまを

木のりく とハ ○木のきくぬまを  
 木のきき とハ ○木のきくぬまを  
 木のけくぬま とハ ○木のきくぬまを  
 木のそとの とハ ○木のきくぬまを  
 木のそと とハ ○木のきくぬまを

木のりく とハ ○木のきくぬまを  
 木のきき とハ ○木のきくぬまを  
 木のけくぬま とハ ○木のきくぬまを  
 木のそとの とハ ○木のきくぬまを  
 木のそと とハ ○木のきくぬまを



1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220
1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220

禁裏御船庭など掃除  
 のり  
 舟はのり花と  
 船はのり花と

1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230
1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230

ち



ありのまゝとハ。源氏物語の巻の二カ  
る

●

とちり地 とハ。おのむいふのむいふ  
おまぎのうらめとハ。おまにーしよそ  
おふつと家 とハ。人のうたはしよ  
おさつくくあひまハ。おまのむいふのむいふ  
とどろま とハ。おまのむいふのむいふ  
おふのまひんてとハ。おまのむいふのむいふ  
註いふまふいふのむいふのむいふのむいふ

おのひのひ とハ。おのむいふのむいふ  
おのひのま とハ。おまのむいふのむいふ  
おいそりのひとハ。おまのむいふのむいふ  
とちこち とハ。おまのむいふのむいふ  
とまかハ とハ。人のくゆるとま  
おもとく人 とハ。おまのむいふのむいふ  
おふろ月夜 とハ。おまのむいふのむいふ  
おとくめ とハ。天女のこま

右但三説有ハ天女ニハ上臈三ハ下女

古今ニ天は凡そのかまひら吹とちく  
上臈ニととちのすくこまけとちく

奇 万葉集 久うこの天はし女うかけききよき

天女 六帖ニ 下女 衣たれぬく 出田のふ理のし女子ハ

おのひのあ とハ 〇あきこしとと

ともせいら とハ 〇くまふ内深のい

とり魚 とハ 〇志けきよとと

大海の とハ 〇侍勢のまに

おしまつき とハ 〇はくゑとと

おま とハ 〇まーまの

たしめ とハ 〇らんちくさ

とと夜 とハ 〇祢系舞人の衣 白地紋

さうむの木 とハ 〇正月松竹のうけ

さくげ とハ 〇秘し

おなるあ とハ 〇くちくらの

おさい とハ 〇あのおく

おのこ とハ 〇男の童

おのひの とハ 〇まゆすの

たやこ とハ 〇ゆつら

おもをゆ とハ 〇えつ

およ とハ 〇おし

とと とハ 〇おなる月よ



カシノ とも。茂の名に

カシノ とも。おころの宿に

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。天の雲戸の跡の

カ

カシノ とも。うまきりきりたせりよ  
スなれいんよあうぬとスナ

カシノ とも。うらうらむねのよみ

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。人よあまらるる

カシノ とも。たいむくたのさき

カシノ とも。ゆめられた蚊のこころ

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに

カシノ とも。あつらへるに



かりの虫	とハ。親王の心
うひのり	とハ。ささく
かとおひ	とハ。我の思
うさしの草	とハ。あひの
かりり	とハ。山伏の
うさくら	とハ。人の心
かねると	とハ。うひや
うさや	とハ。あや
かいて	とハ。柳の

新 夕暮に葛城山のれうはより  
かりりうさくらわき音とせ

うさへん	とハ。りら
かんきよ	とハ。もの
かぞいろ	とハ。父母の
うさ	とハ。いや
かくり	とハ。竹の
うけろよ	とハ。あり
わあ	とハ。まひらの
うさ	とハ。ふら
うさ	とハ。月の

海抄 かたホリ 蝙蝠とて扇を借り始々今のまひら



よ

よふこぎ

よふこぎのせい

二芥とちんらのいらまのちんちん

かま

よりの川

よりの川のせい

よこぐも

よこぐものせい

よろしくこ

よろしくこのせい

よろぐ

よろぐのせい

よまど

よまどりのせい

よんご

よんごのせい

よりのま

よりのまのせい

よりの月

よりの月のせい

よちき

よちきのせい

よりのく

よりのくのせい

右のちまりの

右のちまりのせい

よあち

よあちのせい

た

たまのの

たまののせい

たまり

たまりのせい

集 ちまのはらのものくらりたけり

たまり

たまりのせい





まんだ と六。ゆんごりあふるん

③

そらのまはら と六。あかたのまはら

そらゆく月 と六。あつらりわんこま

そらゆくのう と六。あまのうんこま

そらの花 と六。仙翁花の長巻

あ こまのまはら と六。あまのまはら

袖のまはら と六。あまのまはら

そらろ と六。あまのまはら

そてまら と六。あまのまはら

そまかんだ と六。あまのまはら

そこ と六。あまのまはら

そらら と六。あまのまはら

袖のみむろ と六。あまのまはら

そとつら と六。あまのまはら

④

そらぬお と六。あまのまはら

そらのま と六。あまのまはら

そらゆくま と六。あまのまはら

そらるま と六。あまのまはら

三十一



「蘇よあま

とハ。初夜のあま

「初ふぐり

とハ。かたはるのあま

「ねさめき

とハ。ねさめきのあま

「蘇く

とハ。蘇くあま

蘇

蘇くあまのあま

「蘇きあま

とハ。蘇きあま

「蘇まらるる

とハ。十九日のあま

な

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

「あまのあま

とハ。あまのあま

あま









一 月の夜月

とハ。四月のよ

一 月のひて

とハ。おこるに男女の

一 月の不本

とハ。くち本のふと

一 月のひまの袖

とハ。まきわけの袖と

一 おくよりのひき袖そくちとせん

一 月の不本

の

一 月のひまの袖

とハ。人どまらしく

一 おくよりのひき袖そくちとせん  
又 おくよりのひき袖そくちとせん

一 月のひまの袖

一 月のひまの袖

一 月のひまの袖

一 月のひまの袖

一 月のひまの袖

一 おくよりのひき袖そくちとせん

一 月のひまの袖

とハ。まきわけの袖と

一 月のひまの袖

一 月のひまの袖

く

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

<sup>あはれ</sup>くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろはくまのこゝろと云ふ

くまのこゝろ

くまのこゝろ

くわりのごさ

とハ。松のふもと

や

ひるともきん

とハ。とてしむとみんや

やとりま

とハ。かりそちあうし

山とりのお

とハ。るたてわりと

同

ひとり松と

山川 さと

とハ。のちくや

山川

とハ。あうし

山祇のふもと

とハ。あうし

八重さ

とハ。あうし

やまざり

とハ。ざうびげ

八重女

とハ。祇のふもと

やうし

とハ。妻と

やまふと

とハ。更夜と

やつま

とハ。我と

山ひと

とハ。他人の

山ひと

とハ。こたまの

奇 ちよひてよらんおたひひこあ  
こえいぬひあしと

ま

まご孫

とハ。まよふと

まへちのろくろとハ、かぢりてのろくろ

まづの称 とハ、祥のろくろ

十載集  
三の 正の 正の 正の 正の 正の 正の

まうれい とハ、ふいふのろくろ

まろふろ とハ、あまのろくろ

ますろくろ とハ、かりのろくろ

新  
正の 正の 正の 正の 正の 正の

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まとのむろくろ とハ、年をむろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

まろれ とハ、しるのろくろ

あ  
まの 正の 正の 正の 正の 正の

まろれ とハ、しるのろくろ



とハ。おきりていふ事なり

⑤

あづきのきり

とハ。たふぬがよひ事なり

あまらりの月

とハ。十九日の月事なり

あまらり

とハ。いよせの中たふり事なり

あえたり

とハ。ひよもゆらぬ事なり

あーのきり

とハ。いよぬおひ事なり

あーのきり

とハ。おきりていふ事なり

あき夜

とハ。おきりていふ事なり

あき夜

とハ。おきりていふ事なり

あ月のたのき

とハ。おきりていふ事なり

あまよひ

とハ。おきりていふ事なり

あま

とハ。おきりていふ事なり

あ月

とハ。おきりていふ事なり

あきり

とハ。おきりていふ事なり

あきりの海

とハ。生死の事なり

あぐり

とハ。おきりていふ事なり

あまよひ

とハ。おきりていふ事なり

あきりのお茶

とハ。おきりていふ事なり

あきり夜

とハ。おきりていふ事なり

あはねの月 とハ。廿日の夜の一ひ  
あらしけき とハ。cosmanのし格とあり



このてきハ とハ。うすての紫のやうなあり

おさあひりのの年れたとてこのそりハと

舞いちこりそがらああああうさほく  
このそりハのやうそりかん

ト一地 とハ。うらさとの道と

ことひいさき とハ。松とり

あしとくた とハ。たちちれと

こじまのり とハ。のちくやれと

こげさき とハ。あひそむと

あくのり とハ。内妻と

こちたき とハ。ぶんすしと

心のり とハ。ささきと

うしろの月 とハ。きよと

あしたつ とハ。鏡言のり

こまきと とハ。わくさうと

五明 とハ。扇の一各

うしろのちり とハ。林心と

このちり とハ。兄のり



こころり とハ。そらさけのこころ

あかこ山の賤りこころりおは生にうり  
ときかまきこころのけいこころ

こずあめぬ とハ。九月のゆと云

あしづらと とハ。云祭のゆと云

しものごさ とハ。あと祭のたねと云

夜ららと とハ。きぬと云

あももよ とハ。こひさりと云

夜のあ とハ。かちやうと云

こほじく とハ。八月十日のこほ

（金）

えり とハ。おほいなるこころ

あ いさやういさやういさやういさやう

同 きのうハありいさやういさやういさやう

あ まいひこまきいさやういさやういさやう

いさやういさやういさやういさやう

えり とハ。禁内の火たきのこころ

あ おもらういさやういさやういさやういさやう

えいづら とハ。おほいなるこころ

えくのあ とハ。おほいなるこころ

えいづら とハ。女のけいこころ

（金）

一あくま  
とハ。もしくはのいへ

てなれ茶  
とハ。お宿のいへ

てよ  
とハ。お宿のいへ

てらまひり  
とハ。お宿のいへ

てもたゆぐ  
とハ。お宿のいへ

てうり  
とハ。六月土用のいへ

てんのさち  
とハ。お宿のいへ

一あき  
とハ。お宿のいへ

一あつまぢ  
とハ。お宿のいへ

一あーじま  
とハ。お宿のいへ

一あさくすのた  
とハ。お宿のいへ

一あうねさ  
とハ。お宿のいへ

一あそやまのま  
とハ。お宿のいへ

一あうらひの月  
とハ。お宿のいへ

一あらし  
とハ。お宿のいへ

一あよさ  
とハ。お宿のいへ

一あらし  
とハ。お宿のいへ

一あまの田  
とハ。お宿のいへ

あまの田



「あゆち

とハ。たちねのよきと

「わけやの月とハ。つぎをたぬこ

「あめつち とハ。天地

「あつち とハ。つちのよ

「あしき とハ。ちうき入あしき

「あそび とハ。あひそむれうの

「あまのこ あまのこはあまのこ

「あまのこ とハ。天祚七代のゆ

「あざん とハ。心たしきあざん

「あざん とハ。たうひよあざん

「あゆちの本 とハ。せんたんのよ

「あまのこ とハ。そこのよ

「あまのこ とハ。天のあまのこ

「あまのこ とハ。いなる人のあまのこ

「あまのこ とハ。よそめ。せぬ

「あまのこ とハ。あまのこ。生え

「あまのこ とハ。あまのこ

「あまのこ とハ。中宮又ハ。后のよ

「あまのこ あまのこはあまのこ

「あまのこ とハ。あまのこ

一あて

と六。つかびくんと

一あさこしり

と六。柳のうらこ又板の糸五

新撰於あさこしりなをせらるるけりま月の  
故よこしりま柳ののしと

一あまうし

と六。おとこのか三下けの

一あしきり

と六。おきしきいもやま

一あさうしこ

と六。あらがそるしに

下学集ニ 定賢 可防 善典のなとナリ

一あはとうむ

と六。俊らり藤の

一あしうき

と六。ちんしん

○

一さとしり

と六。たぐもむの

一さしり

と六。おしあるの

一さしぐに

と六。螭ヒの

一さしうま

と六。心かそきし

一さしりも

と六。ゆめにまは

一さのいあな橋

と六。人かまの

一さしりなす花

と六。あしり

一さしり

と六。ひのみの

一さしり

と六。おあふん

一さしり

と六。ちんしん

434



1. まいりのまうに とハ。木の尻えうこいんこ  
 2. まいりまわれ とハ。なましめいる袖と云  
は今 袖はなましめいる袖と云  
は今 袖はなましめいる袖と云  
 3. まいりくる とハ。ありんとらふん  
 4. まいりまわらば。おらまわらば  
 5. まいり とハ。さきくふ  
 6. まいり とハ。おんじれの腰のい  
 7. まいり とハ。おんじれくふ  
 8. まいり とハ。おんじれくふ  
 9. まいり とハ。おんじれくふ

まいり。 とハ。おんじれの腰のい  
おんじれくふ  
おんじれくふ  
 とハ。二月の吳名こ



1. まいりあ とハ。おんじれくふ  
 2. まいりまら とハ。あといんこ  
 3. まいりけき とハ。あういんこ  
 4. まいりまら とハ。おんじれくふ  
 5. まいりり月 とハ。七日八日  
 6. まいりまら とハ。おんじれくふ

新 こぎたのむせのきりくろのゆきたはなれ  
うけてもたのろりうんはな

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

註 きりくろのゆきたはなれ

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

め

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

ゆきまののろり とハ。ゆきまののろり

りり とハ。なりりの久詞

りり とハ。久きあたりの久詞

りり とハ。なりりの久詞

りり とハ。なりりの久詞

み

こねのちりり七とハ。よそはんとまらるとま

二 よそはんとまらるとま  
たうまの山のちりり

ちりり とハ。ちりり

ちりり とハ。ちりり

こねのちりり こねのちりり  
こねのちりり

こねのちりり こねのちりり  
こねのちりり











ひもとき

とハ〇からまのきと云

あひれぬとゆとやしるままりふ 人丸

ひもかへん

とハ〇さありのくゆと云

ひととららの神とハ〇かつらぬの神のき

此神一言まの神を或説ば神面神ころき

ゆへひらま方へするえうりかよひぬへる

なりさるにゆりそよりのちぬらと

まゆによむや

新 まゆによむや ぬらとひらまのちぬらもたえぬへ

ひらまの

とハ〇まのゆゆと云

ひらまの

とハ〇たつ一向のゆゆへ

ひらまの

とハ〇ゆゆもえびひらま

ひらまの

とハ〇ふらちのゆゆと云

ひらまの

とハ〇海のきくさのゆゆ

ひのたけ

とハ〇え日とありのきと云 水操

ひらちの神

とハ〇天照太神のゆゆゆ

ひらちの良

とハ〇五月み日とた運を運うら おま

ひらまの

とハ〇山がらのきと云

し

ひらまの

とハ〇うらうらのゆゆと云

とち月

とハ〇十五日のつきと

河のちつさ

とハ〇ますうへんと

とちあさ

とハ〇だりりのつと

とちのくさらんとハ〇人さたのじと

あをのくさをりすのきくきんえととも  
かたはれやうんささうわさうり

とちのあん

とハ〇人のえんと

とちのくさき

とハ〇あうまうと

とちのけ

とハ〇セウさうけあ

天竺よりハ國名日本小て白裏百のたらい  
ふと入てり二池とてセウさうけあ

りろあ

とハ〇女のまやうたのめ

とちゆがさ

とハ〇ちまのめと

とちひさ

とハ〇さうらたのめ

とちみちの月

とハ〇十月のめ

とちろ

とハ〇よしのめ

とちもち多

とハ〇あうのめと

とちのそ多

とハ〇さうのめと

とちこよふ

とハ〇まのめ

日本記第一豊王姫化爲八尋大熊鱈旬  
透蛇がまむくくとまよふ心



このまじりたるあつらひとてこのころのころ

このまじりたるあつらひとてこのころのころ

新 此れきてもひさしくなりぬ後よりの

まじりのまじり とハ。まじりたるあつらひとてこのころのころ

まじりのまじり とハ。まじりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ

魚成し女巻すくせくはちやくとほきあゆむ

あへの屏風のまじりたるあつらひとてこのころのころ

あつらひたるあつらひ

まじりたるあつらひ とハ。かみりたるあつらひとてこのころのころ





源面よ六

救く文とさつり。祓よいのり

いつらありん。流るどく。眼の尻りか

涙ひりも記。つらぬね。まらぬ命

とてする思。みしあさ文。中の園也

あやせぬ母多。おやぬ月。つらむはの

思。ころぬ

御前と君にあらぬらよそ人の住くまふてつれ

母よあひよ六

かこちまやけり。よらりあ

袖のあつ。おほけりまき人。若。い

ふ。世。とよがぬ甲。さつ。付。古

妻の腰肢。むのね

あつとこよもたたり我を初やありわくのあま

若のあひよ六

妹を抱ひ。文と流る

あつとこよもたたり。あつとあつとあつと

あつとあつと。只一紙のあつり。世よ。一人

あつとあつと。いとあつと中。こよひの月

あつとあつと。あつとあつと。あつとあつと

あつとあつと

あつとあつと。あつとあつと。あつとあつと

あつとあつと。あつとあつと。あつとあつと

あつとあつと。あつとあつと。あつとあつと



たりきあり。夏ナツ受る。ちかしくあはれん  
。倭ヤマト。漢カン人令トモ。此ココ。れとるまき中  
。まき。ここのゆを落。ちるを

あこあらと名。うとそそれ極むきまらるる金持

玉タマとくらふ。元初ハジメてあり。こ。後とれむ

ちる。きと枝の傳ツタ。いりけるは使

元初ハジメらふ。傳ツタ。三ミきり。麓ノボのひり

まはれの。鞠マドの庭ニ。おるまのふたを

よそふとむくむかひとまはれ。うまゆり。たのま

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

あひらふ。あひらふ。あひらふ。あひらふ

五十三

侍。身よりしり。徳兼。徳う跡と

ころうきめ。青の月。今のとこハ

り舟。捲き。春の宿。なれま

。あの来。糸。因幡山

みおのつれを。又。別うり。嘆えうり。おあ

きぬく。おふつきる。愛の種

。夢う跡を。床は風のあまう。志の良

きまを。おののこ。おぬく。まを

。おののこ。おぬく。まを

。おののこ。おぬく。まを

。あより。仏。徳文のたま

ち。おとら。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

。あより。人。おぬく。まを

五十五



八月。御方啓

振さくらの中よ

ふのまゝあしぬ

ふのまゝあしぬ

いりけされ中よ

らよ。おづのめづら

おまじいおよ

おまじいおよ

おまじいおよ

おまじいおよ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

。祝云。三年と存。いりけるはさあり

あしぬのあしぬとてつとびてはとよひとておのれ

たよ急よ

。物よあま。おまじいおよ。おまじいおよ

うしるあしぬ。あしぬ。あしぬ

おまじいおよ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

あしぬ。あしぬ。あしぬ

きよめのむす

。袖の白ひ。麓の内

。あびあひさし。うさまうし人。あびし人

。たのまうした中。おん車。うすくあくま

あぶらうくよ

。うさくしのあく。袖のうさ

。夜のそくしめ

めぐしおよ

。廣のひし。人あしあ

世とくはわらうし人あしあしをた

うさくしうら

。伝書のお。あぶら

。月よあせあしむむて。ちとせ

あうにまうしなう。人のあ

。女のあひの飛。後よはの世よのま

解く六

。恨のあ。さか

。まはうしめ。人あしあ。あ

。うさくし

。灯の糸

袖のうさ

。別ぬる伝。伝

。衣の下。刺とほむ。か

。梅のむ。あし。あ

。うさくし車。あ

。あ

下のあ

。後

。あ

。あ



馬のくま

。わびしナカリ契。あさねえり

。さうしら。んうめだナカレ盤。さゆく人

。老ぬり男。まの山をうし

かよひぢらふ

。あす人め。毒をくらめ種

うとナカレ開窓

。うらまひ。妹ナカレうり。小車

ゆめを。産ナカレのき。あさくら。空路の

海り。織ナカレが血本。ところよナカレまナカレ本

文ナカレ入

。宿ナカレがひ。後あり人。かゝる人

契

新ナカレるま

御ナカレ後所

。祓ナカレおらるま

馬の酔。まろふ。うらまひ。羅ナカレ面ら

。おのま。おま。ゆくま。ぬ。さナカレま

さうしらふ

。うけたまる中。あさね別

。うとナカレ契のん。おまナカレねナカレい

あまナカレごま

。ま名。うらまひ。娘ナカレま

。酒ナカレ念の衣。あナカレまナカレねナカレ。麻。宿ナカレ。老の身

。罪ナカレうり男。おまナカレしナカレ。うらまひナカレせ。あナカレま

かナカレねナカレ後。うらまひ。あナカレまナカレねナカレさ

うナカレとナカレ別。さナカレまナカレまナカレ契。あナカレまナカレねナカレ。伝

よナカレらナカレ夜。契ナカレあナカレさナカレれ。回ナカレまナカレぬナカレ夜。あナカレまナカレねナカレ孫



科考云 求守 自便 極々 不毛 餘祿 取 丸棄物 流行 吃

我任 右往 利往 伊車 齋物 噴々 旬々 糜食 自若 訛

節季 賄賂 杖扣 內扣 主應 上風 義旨 定癖 時勢 視

鳴聲 進疾 變垂 寸々 昔語 問再 儂等 嚶々 流石

遜者 可愛 使入 正中 迫付 目進 樹擲 女童 暇了

展破 新物 放氣 自然 諸有 噓著 誦合 多々

學 糖 群 蓮 反 葉 流 物 動 墮 後 手 遺 浮 女 想 像 花 糸

端 的 白 灰 苦 蓋 遊 東 風 西 風 賈 女 棘 人 落 巨 灰 札 紙 本

避 造 火 花 柿 膏 桃 尻 無 比 步 作 者 殿 末 天 鵝 絨 九 取

盪 希 伏 張 臍 物 烘 罍 頓 飄 者 下 便 飛 十 千 種 進 籃 杯

飄 掌 身 挺 盃 嚙 纒 箬 屯 奴 如 龜 適 十 八 種 口 号 何 者

南 風 北 風 瀆 物 形 作 皮 裡 附 聊 尔 言 羈 打 浮 虛 惡 忌 豔 地 定

左之右之  
簀子 物 無狀 物 樣取物 放謝氣 水覆出 癸物

不安定 自在 心快 造鑿 行域 販事 所為 下水 蒸

魁雲 肌合 少見 軟弱 位奴 畢丸 寢徒者 寬綽 嬋媛

實物 豐鬪 月丁 粗毛立 婀娜 下僧目 眞目 迎聞 類聞 聆食

一寸 喘咽聲 熟人 寒若離 親 慳目 輕人 凶會所

知氣 長今 因嗽 谷風 鄂反 宥人 火熱 天窓勝物 通欲 雲類

名有 吠與 蠶豆 晚稻 熟丸 花表 酢壘 蕙姑 爵多 鑽綜

暹明 壁錢 錠豆 興米 食熟 猶食 咲嚙 息坎 關木 枯露

水蚤 鱗鱗 皂葉 參差 滕參 破賊 雄豆 日選 篠目 道新

